

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 3月 26日

【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	4290300070		
法人名	医療法人 済家会		
事業所名	グループホーム長庚堂Ⅱ		
所在地	長崎県島原市弁天町一丁目 7063 番地		
自己評価作成日	H26年2月15日	評価結果市町受理日	H26年3月31日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七 島原商工会議所一階
訪問調査日	平成 26年 3月 13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

母体法人が近隣にて医療機関の為、24時間体制で連携が密に行え利用者様、ご家族様に安心して頂けている。また立地が商店街、公園が近く郊外へ出かけやすい。グループホーム長庚堂の事業所も隣りにある為、利用者同士の交流も図れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点 (評価機関記入)】

住宅街、商業地域に隣接した立地は、住み慣れた地域での暮らしの継続においてグループホームの目的に沿った姿が感じられる。地域連携も良好であり、母体法人、併設事業所が築いた信頼と運営推進会議の双方向な活用は運営に反映されている。「家族に代わって」と管理者が伝えられる言葉とその実践に向けた真摯な姿勢は、支援の見直しにと取り組んだ職員個々の毎日の自己評価に表れている。近隣の方からも笑い声が良く聞こえるホームというお声を頂いており、医療のバックアップによる安心と、ケアの質の向上を目指す職員に支えられ自分らしい暮らしを送る入居者の笑顔が見られる事業所である。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関・事務室に掲示し、毎朝申し送り時に唱和し思いを共有することで実践につなげている。	今年度は各自の自己評価に日々向き合ったことで、入居者への観察、思いが深まった支援が職員に垣間見られるようになり、理念の実践へも繋げることができた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として市民清掃への参加や福祉体験学習の受け入れを行い交流している。	併設事業所も先行してある為、地域の認知度、理解も高く、町内会長など厚く協力を得られている。地域住民からの日常的な挨拶、声かけなど交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設だよりを町内会に回覧して頂き認知症の人への理解に努めている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見交換も活発に行っており、いろんな立場からの意見を真摯に受け止めサービスの向上に活かしている。	母体病院から薬剤師を招いての感染症や介護に関する情報提供など、地域代表や家族からも好評の声を頂いている。1月には初めて地域警察の方にも参加いただいた。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者に運営推進会議に出席して頂き、事業所の実情等を伝え、アドバイスも頂き協力関係を築くよう努めている。	推進会議が主な報告、連絡の機会だが、少しでも不明な点は遠慮なく行政担当者へ何でも相談している。偶然、入居者自宅近隣の担当者もおられ話しやすい関係である。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>研修会や母体法人の勉強会に於いて身体拘束について理解をし支援している。</p> <p>日中、玄関や通用口の施錠は行っていない。</p>	<p>スタッフ会議で確認したり、研修参加者が持ち帰った資料を回覧し内部でも徹底を図っている。外出傾向のある方へは思いを受け止め納得頂けるよう、寄り添う支援を行なっている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修会や母体法人の勉強会に参加し全職員理解し、防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修会や母体法人の勉強会に参加し理解はしているが活用する機会がなかった。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所前に本人・家族の話を伺い説明を行うことをご理解を頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置している。</p> <p>家族会や面会時等に意見・要望を伺い対応している。</p>	<p>今年度4月の家族会において、6家族の参加にスタッフも加わり職員の対応、支援に関する率直な意見を頂いた。目標達成計画に掲げ迅速に改善に繋げることができた。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎朝、申し送り時やスタッフ会議に於いて意見交換を行い運営に反映している。</p>	<p>ほぼ毎月スタッフ会議において、職員とのコミュニケーションも図りながら業務に関する相談、提案を話し合っている。法人関連施設の各管理職の会議も週三回行っている。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	母体法人の総務で勤務状況の把握ができています。		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	母体法人の総務で把握しており法人内外の研修は受講ができています。		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	島原半島グループホーム協議会の勉強会等に於いて情報を得、サービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	入所前に本人の思いを傾聴し、不安の軽減に努めている。		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	入所前に家族の思いや不安なことを伺い説明を行うことで不安の軽減や要望に応えられるよう努めている。		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	アセスメントを充分行い、助言を行っている。		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の一員としてという思いで接するよう心がけているが、時には介護者として接していることもある。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や手紙、面会時に状態報告等行い、より良い関係が築けるよう努めているも、事務的に面会を済ませる家族もあり共に支える関係が築けないことがある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうち、支援に努めている	自宅周辺の散歩や馴染みの店での買い物が続けられるよう努めている。	入居者の元同僚が訪ねてこられるなど、旧知の友人が訪問しやすい支援がなされている。遠方の家族へは本人に代わって安否を伝える葉書を出し、返信には入居者も喜んでおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションが図りやすい食堂の席等配慮しているが、性格の問題もあり上手くいかないこともある。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	面会に行ったり、家族からの相談にもものっている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人・家族の思いを大切にし、意向の把握に努めている。	アセスメントは入居時、定期的のみならず身体変化や家族状況など随時対応している。本人が伝えられない部分も増えており、家族を介して意向を伺うこともある。	

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族とのアセスメントや、関係者からの情報提供により把握に努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、申し送りにより職員間で情報交換し全員で共有している。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した支援がなされるよう月一回のモニタリングで日々の状態を説明し介護計画の再確認を行っている。	プランにしっかり基づいた支援を提供したいとしており、実地指導に沿って短期目標を更に絞り込みを図っている。本人の希望を更に引き出す為に、情報収集の必要性を感じている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録により日々の状態の変化等が把握でき共有することで実践できている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	車椅子使用者の自宅外泊時の送迎や買い物同行、リハビリの送迎、初詣等柔軟な支援に努めている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市や町内会からの情報紙は施設内に掲示し、本人・家族に伝えている。希望があれば可能な限り支援に努めている。		
30	11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に副って定期的に受診している。	母体病院との連携においての受診はもちろん、かかりつけの他科受診、他院受診も継続して通院支援をおこない、変化がある場合は家族へ電話で報告している。	

31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期の訪問看護及び異常時の相談・助言等連携を図り適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人・家族の意向を尊重し、早期退院に向けて病院関係者との連携をとっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の計画作成の際、終末期のあり方について、本人・家族に説明を行い確認をしている。	現在、看取り支援は行なわないという方針であるが、今後本人及び家族がホームでの看取りを希望されれば検討していきたいと考え、現場の声として代表者に挙げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに副って対応するよう、全職員が周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の人にも参加を呼びかけ、昼夜を想定しての避難訓練を行い、マニュアルを作成し周知している。	目標達成計画に沿って備蓄を整え、入居者個別の避難マニュアルを作成し持ち出しファイルも更新している。11月の訓練には地域住民、家族にも参加、協力いただけている。	年二回の避難訓練は充実しており、マニュアルも備えられている。反復訓練として事業所内部での確認の意味合いを持った日常訓練がプラスされるなど、更なる周知徹底も今後期待したい。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時の声かけや失禁時の対応等、本人のプライドを傷つけないよう特に心がけている。	目標達成計画に挙げ職員各自が毎日自己評価に取り組んだ結果、対応や声かけについての心がけに変化があらわれ、マンツーマンの対応において入居者との関係性も良くなった。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から信頼関係を保ち、本人が自分の思いを安心して伝えることができるよう働きかけている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースで自由に過ごされている。外出等希望に副えないこともあるが理由を説明し理解頂いている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時の服は本人に選んでもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえやおやつづくりに参加して頂き、食への関心が持てるよう心がけている。	「食べたい物はない？」と声かけして手作りのおやつや店屋物も楽しむこともある。秋には干し柿作りをおこなった。職員と食事を共に楽しみ会話が行き交う和やかな食卓である。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成している。食事以外でも水分補給には季節や本人の状態に合わせて行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけにより行っている。できない人は介助により行っている。夜間は義歯を預かり義歯消毒を行っている。	

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表により把握し、トイレ誘導・声かけを行っている。 個人の状態に応じてリハビリパンツから布パンツを使用するよう試みている。	個々の状態にあわせて密に対応に努めて、日中は全員トイレを使用し、布の下着へ移行することに成功している。入居前より排泄の状況は改善され自立支援が着実になされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動の声かけ、腹部マッサージ、水分補給等を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は週3回決まっているが、希望があればシャワー浴で対応している。	入浴の順番を「くじ引き」で決めることも入居者にとって一つの楽しみとしてもらい、季節に沿った柚子湯や菖蒲湯を用意し、清潔保持はもちろん入浴を楽しめる支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由にその人のペースで休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人記録に添付しており、いつでも確認でき、服薬マニュアルに副って服用して頂いている。		

48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>一人ひとりの力に応じて家事に参加して頂くことで気持ちに張り合いが持て自信へ繋がるよう支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>希望があれば可能な限り外出支援を行っている。各種イベントにも本人の希望を伺い出掛けている。</p>	<p>自宅が近くの方は散歩のついでに立ち寄り庭の花を摘んで帰ったりと個々の希望に応じている。初市、祭り見学と土地の風物、季節を楽しむ外出もなされている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を管理できる人は外出の際本人におやつ等買って頂いている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望があればいつでも電話をかけて頂いている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂のテーブルや玄関に花を生け、季節を感じて頂けるよう工夫している。</p>	<p>キッチンと一体化した居間は、トップライトからの採光と季節感に配慮した明るい寛ぎの空間となっている。随所に入居者持参のキーボードや飼育されていた金魚の水槽が置かれ温かみを感じられる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂の窓際の陽あたりのよい席でひなたぼっこをしたり会話をされ安心して過ごせる場所となっている。</p>		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり自宅で使用されていた家具等配置し本人が安心して過ごせるよう工夫している。	馴染みの物に囲まれる安心感や快適性を優先し、家族の要望にも沿ってレンタルマットや空気清浄機など持ち込んでいただいて、過ごしやすい部屋作りが協働してなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており廊下の両側に手摺りが設置されているので移動が安全に行なえる。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない